

長浜企業 景況調査

報告書

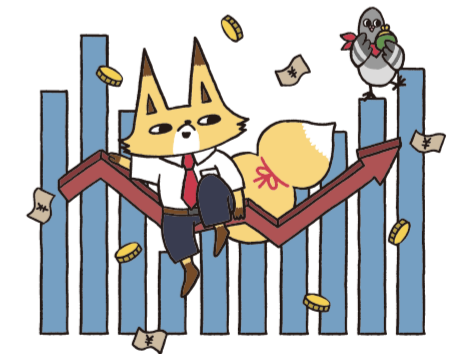


実績 2023年 4月～6月

見通し 2023年 7月～9月

今期のトピックス

- ① 原材料価格上昇の影響
- ② 採用状況・人材確保の手段について



アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！
発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。
補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)
健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方→
Google Play ストアからダウンロード



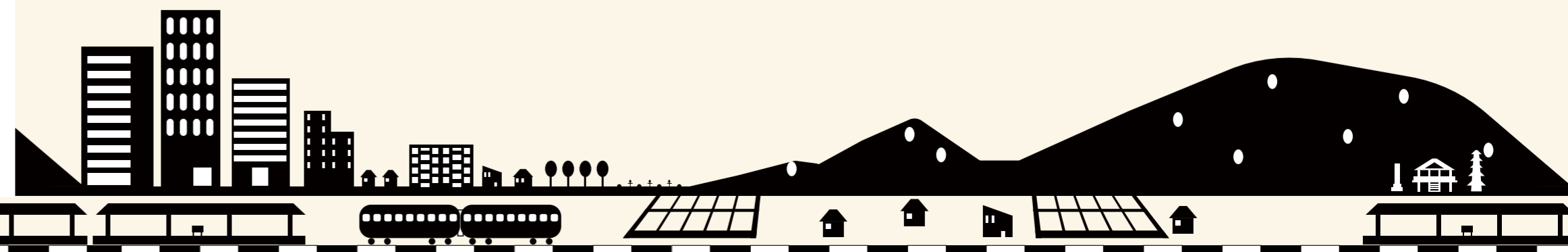
■Iphone・ipad をご利用の方→
App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



 **長浜商工会議所**
NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



コンテンツ

01 調査概要

02 今期のトピックス

03 全体の景況感（総括）

04 調査項目別 DI 値

04 業種別業況 DI の推移（長期トレンド）

05 業種ごとの動向 (卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業)

07 設備投資の有無

08 調査項目別 DI の推移

10 その他業種別自由意見

調査概要

長浜企業景況調査について

① 調査対象期間・調査時点

調査対象期間: 令和5年4月～6月
調査時点: 令和5年7月1日

② 調査方法

長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式
・メール方式による調査

③ 調査対象企業数

220社 (内訳は右表通り)

④ 報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	24	10.9%	16	12.1%	66.7%
小売業	40	18.2%	25	18.9%	62.5%
サービス業	70	31.8%	38	28.8%	54.3%
建設業	32	14.5%	20	15.2%	62.5%
製造業	54	24.5%	33	25.0%	61.1%
合計	220	100.0%	132	100.0%	60.0%

長浜企業景況調査の見方について

DI 指数について

- ① 調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ② 調査項目のうち、「業況(自社)」「売上高」「採算(経常利益)」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向(同業他社)」「長・短期資金借入難易度」「受注動向(建設業)」「在庫量(製造業)」のDI指数は前年同期と比較しています。
- ③ 「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

DI 指数の見方について

- ① DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気がよい」と判断されます。
- ② このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③ 業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④ 資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤ 小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDIに影響を与えます。
- ⑥ 建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のためで1～3月期は総じて低調な傾向となります。

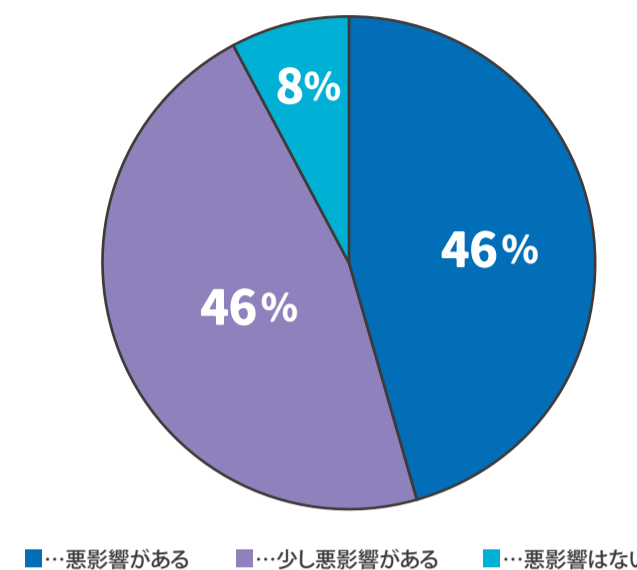
設備投資の見方について

- ① 好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

今期のトピックス

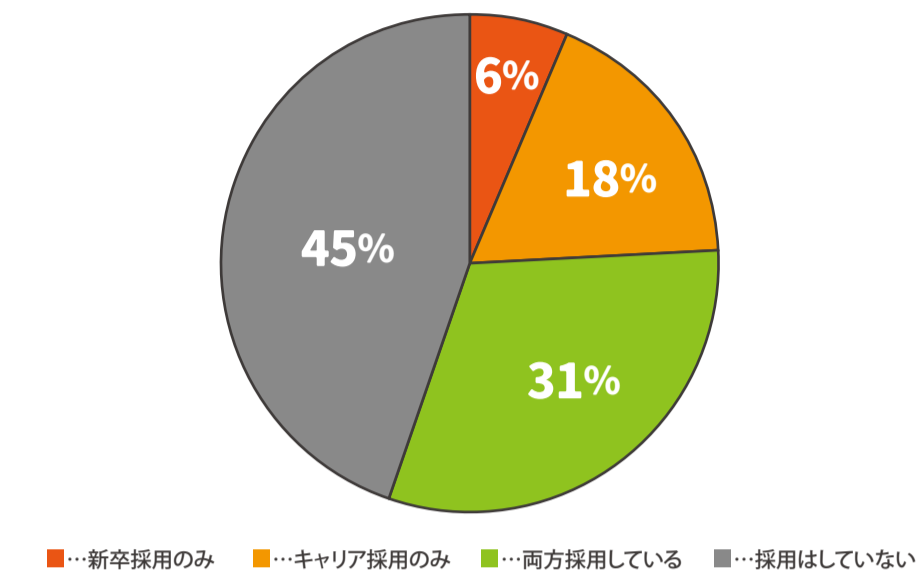
1. 原油等、原材料価格上昇の影響

「悪影響がある」「少し悪影響がある」の合計は前回と変わらず以前悪影響が続くが、「悪影響がある」67%→46%、「少し悪影響がある」26%→46%と若干の改善はみられる。

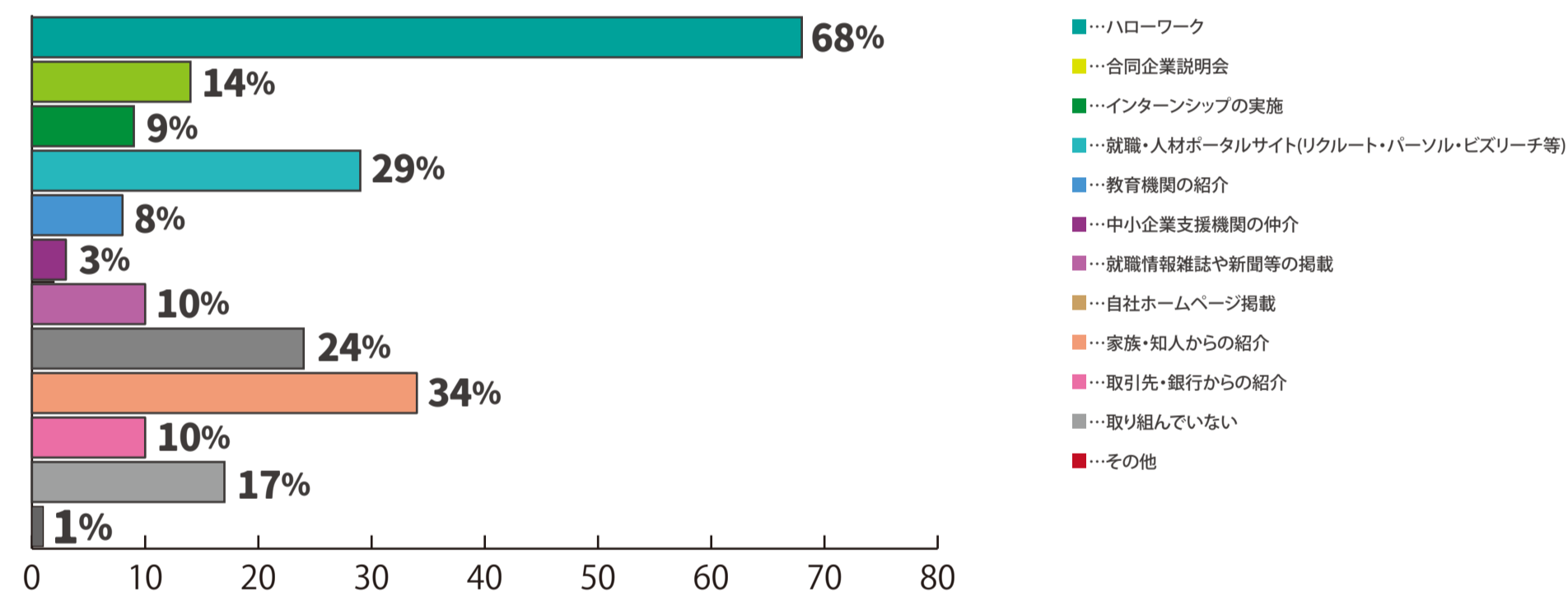


2. ここ数年の採用状況 (2021-2023) について

新卒採用をしている企業の割合は37% (6%+31%)、キャリア採用をしている企業の割合は49% (18%+31%)。



3. 人材確保の手段について (有効回答企業数 114 社)



「取り組んでいない」の回答は17%に留まったが、「2.ここ数年の採用状況(2021-2023)について」では、「採用していない」が45%と差があり、採用の厳しさが窺える。人材確保の手段として「ハローワーク」が68%で、どの業種でも高い割合となった。

企業の取り組み事例

- ・同業他社の動向等の情報収集に心がけている。(卸売業)
- ・HPリニューアルの効果はあった。(卸売業)
- ・日本人の人材確保が困難になってきた為、外国人の人材利用を検討している。(サービス業)
- ・業種、業界毎に適正、優秀な人材又は予備人材を大切に保つ。又は育てる風潮をつくる様心掛けている。(サービス業)
- ・できるだけ学校、教育機関との繋がりを大切にする。(建設業)
- ・高卒求人において自社の魅力を知ってもらう為、専用のコンテンツを作成し、トップ自らが高校進路課担当者に説明している。(製造業)
- ・新卒や若手採用の強化としてHPのリクルートサイトのリニューアルを実施中。(製造業)

全体の景況感（総括）

「景況感は、緩やかに持ち直している」

全体の業況DIは、前期（2023年1-3月期）の7.4から今期13.8と良化しました。売上高DIが16.0と5.6ポイント上昇したためと考えられます。業況DIは3期連続で良化、コロナ禍後最も高くなりました。一方、採算（経常利益）DIは▲5.3で1.6ポイント低下しマイナス圏を脱することができませんでした。来期（2023年7-9月期）の業況DIは8.5でプラス幅が縮小する見通しとなっています。

全体の仕入れ価格DIは、前期80.3から今期74.2と低下し、来期はさらに低下する見通しとなりました。業種別では、製造業と建設業で大幅に低下しましたが、卸売業では大幅に上昇しました。全体の販売価格DIは43.1で前期並みでした。業種別では、卸売業が大幅に上昇、建設業が大幅に低下しました。全体の従業員DIは▲28.8で、前期より低下し人手不足感はすべての業種で続いています。

一方、同時に実施した「設備投資の計画状況」調査によると、設備投資計画が「ある」企業の割合は減少し24.2%でした。投資内容を見ると、景気回復期に強まる「生産力増加」投資と「合理化・省力化」投資の合計が全体で40.6%とやや減少しましたが、製造業では50.0%と高い結果でした。設備投資意欲はやや弱まり、能力増強投資は業種にばらつきが見られました。

すべての業種で業況DIのマイナスがなくなる

業種別に業況DIを見ますと、建設業が大幅に良化、製造業は改善、サービス業は前期並み、卸売業、小売業は悪化しましたが、すべての業種でマイナスがなくなり持ち合い（0.0）またはプラスとなりました。新型コロナが5月8日に「5類」に移行したことをきっかけに、観光をはじめ消費行動に活気が見られるようになり企業の経済活動に好影響を及ぼし始めています。

建設業は、売上高DI、採算DIが大幅に上昇しました。仕入れ価格DIは14.9ポイント低下しましたが販売価格DIはそれ以上に低下（▲21.4ポイント）しました。製造業の在庫量DIは大幅に低下し8期ぶりにマイナス（減少）となりました。仕入れ価格DIは大幅に低下しましたが、販売価格DIは前期並みでした。従業員DIは▲39.4とコロナ禍以降最も不足感が強くなりました。生産の回復が窺われます。卸売業では、売上高DI、採算DI、採算の水準DIが20ポイント以上低下、仕入れ価格DIが再び93.8に、販売価格DIが75.0までともに大幅に上昇しました。来期の業況はさらに厳しくなる見通しです。小売業は、大幅に回復した前期並みの業況DIを維持、来期はさらに良化する見通しです。消費態度の好転が背景になっています。サービス業の業況DIは、全業種中最も高いレベルで推移しています。

売上高回復の次は収益回復へ

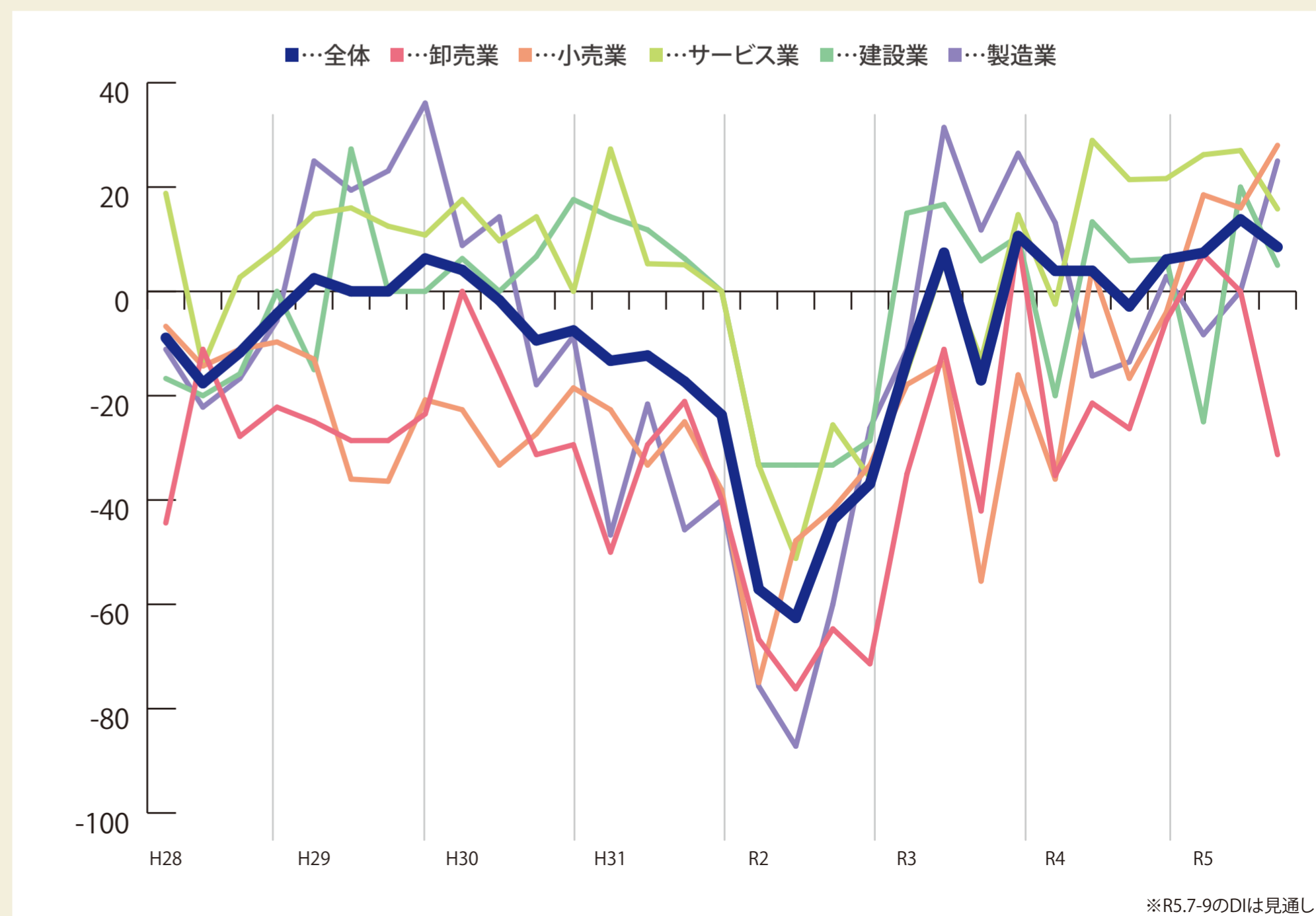
採算（経常利益）DIが前年同期と比較した「好転」-「悪化」なのに対し、採算の水準DIは今期3か月間の「黒字」-「赤字」の回答割合を表します。採算DIがマイナス圏を脱し切れていないのに対し、採算の水準DIは7期連続プラスで推移しており、今期は12.5で前期比低下しましたが、来期は20.3まで再び上昇する見通しとなっています。前年並みの経常利益までは回復していませんが、足元では黒字企業の割合が増加しているのです。仕入れ価格や原材料価格の上昇が止まらず各種経費のコストアップが続く中で、収益確保のために必死で努力している堅実経営の姿勢が窺われます。

6月の国内企業物価指数および輸入物価指数の伸びが6カ月連続で鈍化していることや再生可能エネルギー付加金の減額等のプラス要因があるものの、円安や地政学的要因による経済変動を睨みながら、景気回復期の設備投資も視野に入れる舵取りが続くと思われます。（中小企業診断士 川副 郷一郎）

調査項目別 DI 値

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
業況	3.9	▲2.9	6.1	7.4	13.8	8.5
売上高	7.9	2.9	10.0	10.4	16.0	13.0
採算(経常利益)	▲7.9	▲15.8	▲13.1	▲3.7	▲5.3	▲6.9
資金繰り	▲4.7	▲9.4	▲8.6	▲3.7	0.8	▲1.5
従業員	▲23.2	▲21.6	▲29.7	▲26.9	▲28.8	▲28.2
取引の問い合わせ	▲8.1	▲10.1	0.8	4.5	▲0.8	▲2.3
採算の水準	11.4	1.4	9.2	17.0	12.5	20.3
販売価格	45.7	47.4	48.5	43.0	43.1	42.0
仕入れ価格	82.3	77.9	77.0	80.3	74.2	67.4
業界動向	▲13.3	▲12.6	▲12.0	▲7.0	▲8.1	▲9.5
借入難易度(長期)	10.7	3.0	3.2	4.7	0.8	0.0
借入難易度(短期)	9.9	1.5	4.0	9.3	1.6	2.4
受注動向(建設業)	▲7.1	11.8	▲6.7	▲33.3	5.3	▲5.3
在庫量(製造業)	13.8	12.9	23.3	13.3	▲3.8	7.7

業種別業況 DI の推移（長期トレンド）



※R5.7-9のDIは見通し

業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

業況の動き アイコンの説明

▲ 前期の業況DI値から
+1以上

▶ 前期の業況DI値から
+1未満▲1超

◀ 前期の業況DI値から
▲1以下

※全国の業況DI...
「中小企業業況調査」
(中小企業庁)結果より

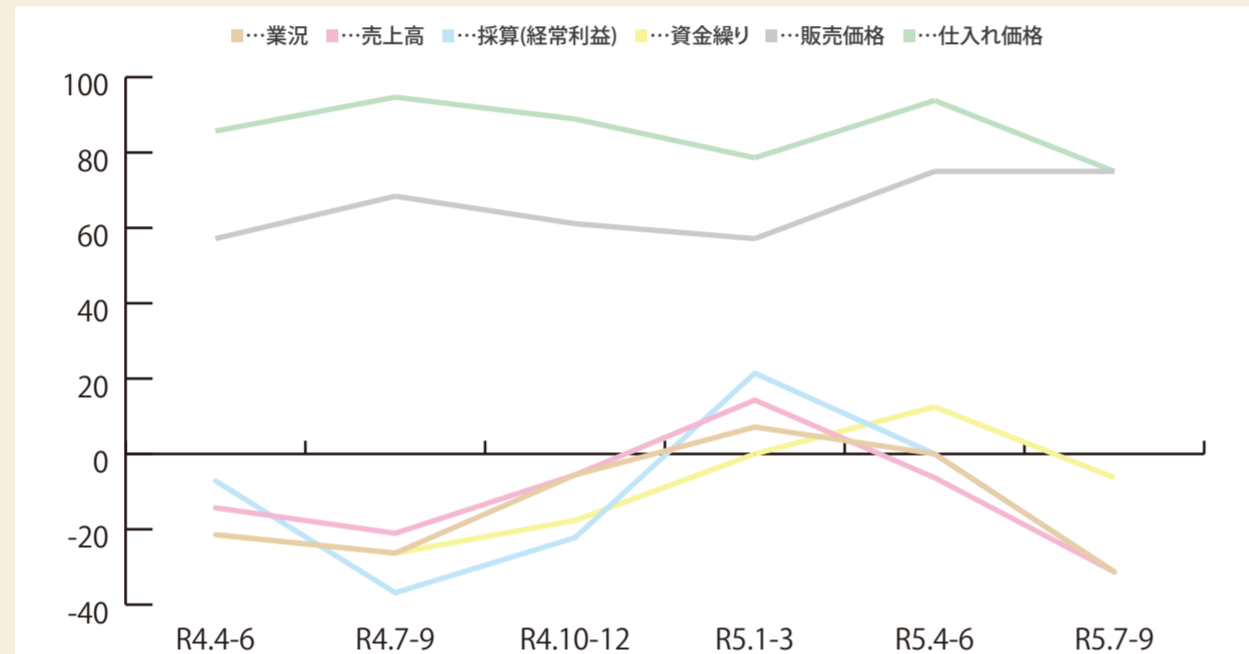
卸売業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 ▶ 業況DI ▲9.8→▲9.3

長浜 ◀ 業況DI 7.1→0.0

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
業況	▲21.4	▲26.3	▲5.6	7.1	0.0	▲31.3
売上高	▲14.3	▲21.1	▲5.6	14.3	▲6.3	▲31.3
採算(経常利益)	▲7.1	▲36.8	▲22.2	21.4	0.0	▲31.3
資金繰り	▲21.4	▲26.3	▲17.6	0.0	12.5	▲6.3
販売価格	57.1	68.4	61.1	57.1	75.0	75.0
仕入れ価格	85.7	94.7	88.9	78.6	93.8	75.0



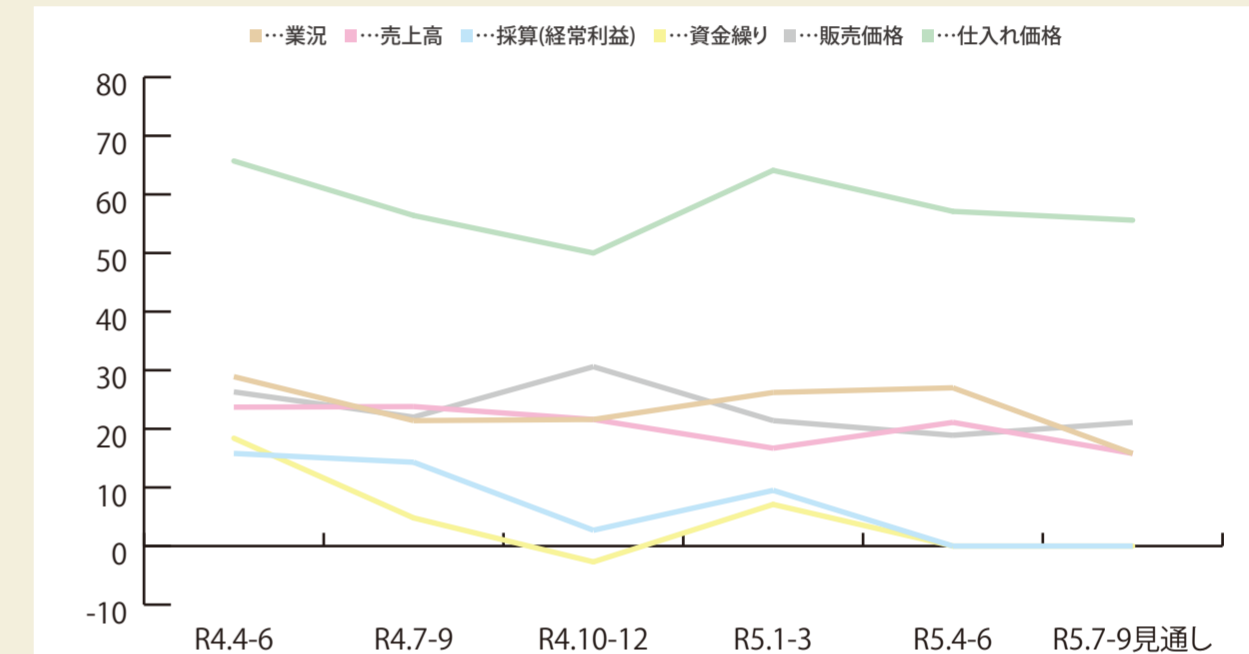
サービス業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 ▶ 業況DI ▲8.7→▲4.0

長浜 ▶ 業況DI 26.2→27.0

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
業況	28.9	21.4	21.6	26.2	27.0	15.8
売上高	23.7	23.8	21.6	16.7	21.1	15.8
採算(経常利益)	15.8	14.3	2.7	9.5	0.0	0.0
資金繰り	18.4	4.8	▲2.7	7.1	0.0	0.0
販売価格	26.3	22.0	30.6	21.4	18.9	21.1
仕入れ価格	65.7	56.4	50.0	64.1	57.1	55.6



事業者の声

好転

- ・対面での商談が増え、引き合いは増えている。
- ・コロナ5類になりイベントがしやすくなった。

悪化

- ・物価上昇による需要の減退が気になる。
- ・原材料費、光熱費の上昇をすぐに価格への転嫁はできない。

事業者の声

好転

- ・感染対策用の様々な消耗品購入量が減り、経費が落ち着いてきた。
- ・コロナも収束し来客数が増えた。

悪化

- ・原油、原材料価格に人件費が上昇し続けており採算ラインが読めない。
- ・購入できる場や商品がより幅広くなり、消費者の選択肢が増えたことにより、断続的に売り上げが増減しにくいと感じる。

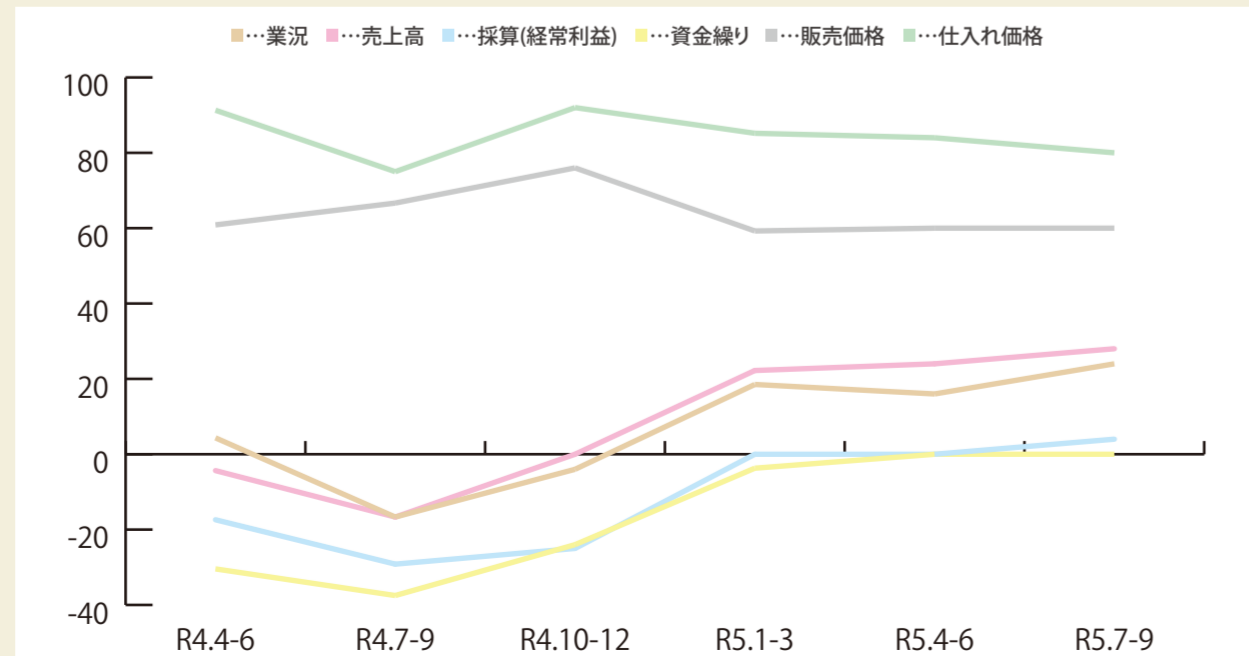
小売業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 ▶ 業況DI ▲22.9→▲22.1

長浜 ◀ 業況DI 18.5→16.0

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
業況	4.3	▲16.7	▲4.0	18.5	16.0	24.0
売上高	▲4.3	▲16.7	0.0	22.2	24.0	28.0
採算(経常利益)	▲30.4	▲37.5	▲24.0	▲3.7	0.0	4.0
資金繰り	▲17.4	▲29.2	▲25.0	0.0	0.0	0.0
販売価格	60.9	66.7	76.0	59.3	60.0	60.0
仕入れ価格	91.3	75.0	92.0	85.2	84.0	80.0



事業者の声

好転

- ・5月の連休日以降観光客も増加。
- ・コロナが落ち着いてきたことが大きい。
- ・積極的に広告投稿などを行い、ネットショップの売上げが好転。

悪化

- ・原材料価格の上昇により状況は悪化し続ける。
- ・値上げはしたものの、利益率は改善されていない。

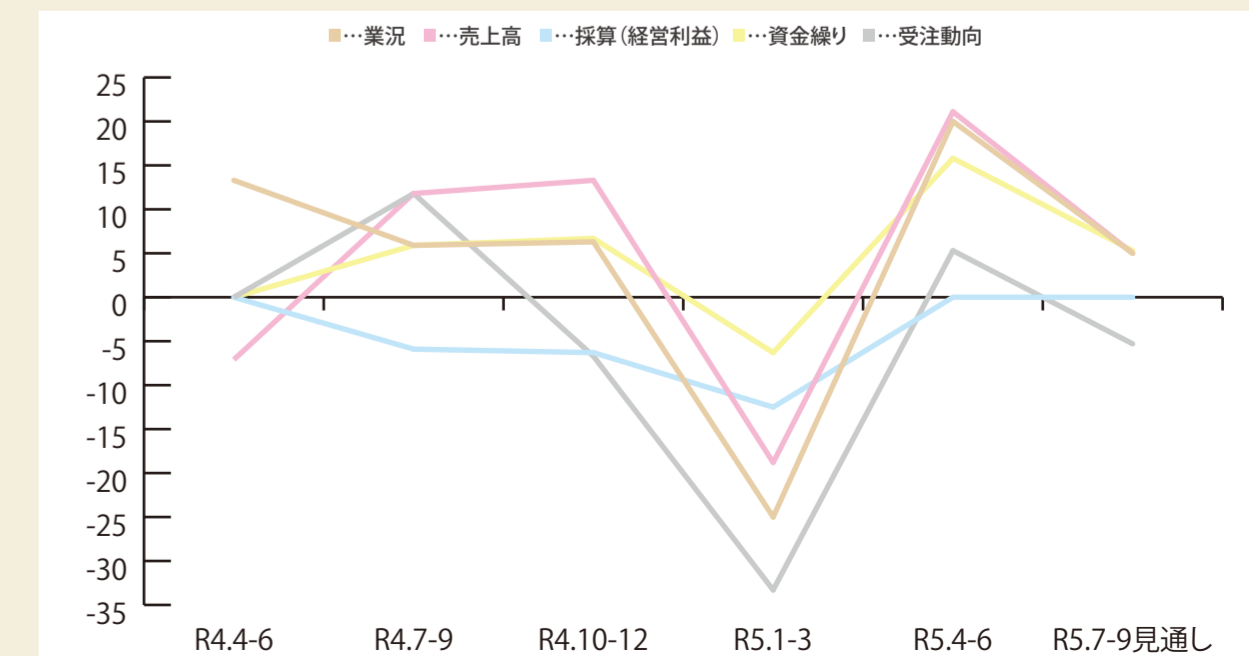
建設業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 ▶ 業況DI ▲13.9→▲9.0

長浜 ▶ 業況DI ▲25.0→20.0

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
業況	13.3	5.9	6.3	▲25.0	20.0	5.0
売上高	0.0	11.8	13.3	▲18.8	21.1	5.0
採算(経常利益)	0.0	▲5.9	▲6.3	▲12.5	0.0	0.0
資金繰り	0.0	5.9	6.7	▲6.3	15.8	5.3
受注動向	▲7.1	11.8	▲6.7	▲33.3	5.3	▲5.3



事業者の声

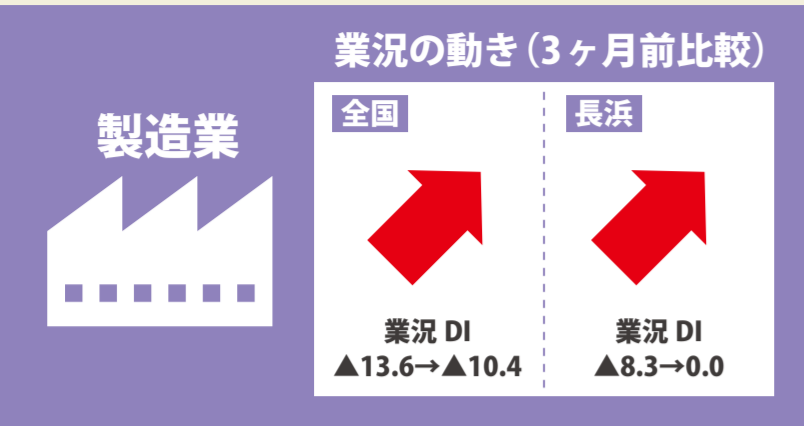
好転

- ・受注好調。
- ・見積もり案件が増えた。

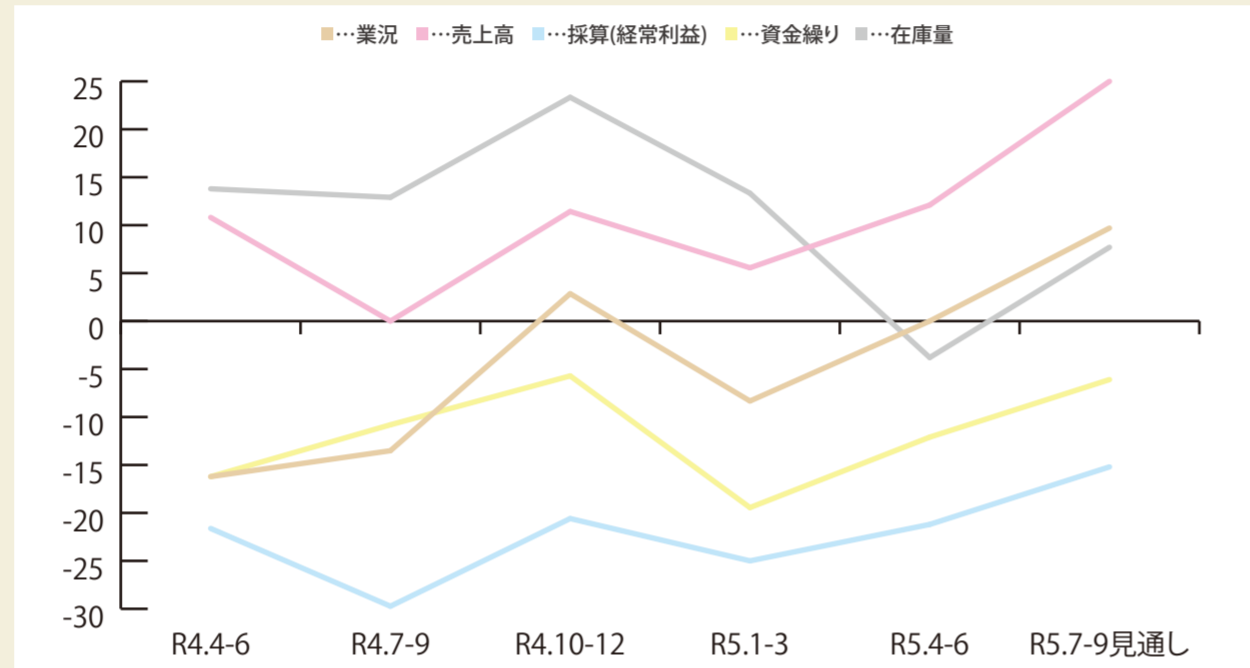
悪化

- ・同業者が減ったことで市場の縮小が加速していく。
- ・雇用問題。社員不足が懸念される。

業種ごとの動向（製造業）



	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
業況	▲16.2	▲13.5	2.9	▲8.3	0.0	9.7
売上高	10.8	0.0	11.4	5.6	12.1	25.0
採算(経常利益)	▲21.6	▲29.7	▲20.6	▲25.0	▲21.2	▲15.2
資金繰り	▲16.2	▲10.8	▲5.7	▲19.4	▲12.1	▲6.1
在庫量	13.8	12.9	23.3	13.3	▲3.8	7.7



事業者の声

好転

- 昨年と比較して、5月の新型コロナの5類への移行後、商談や問い合わせが増えている。
- 需給バランスの好転で長期的な受注が入っている。

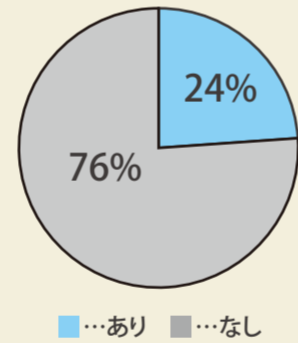
悪化

- 半導体関係の悪化が継続している。
- 職人の高齢化や離職などで現場がまわらず、顧客のニーズに対応することが困難。

設備投資の有無

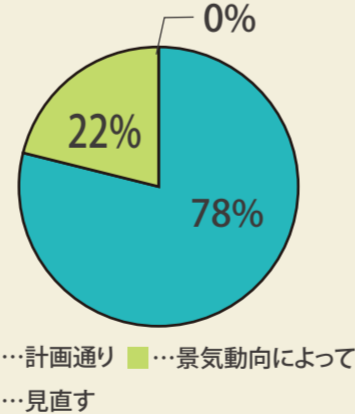
①設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	5	2	5	4	16	32
なし	11	23	33	16	17	100



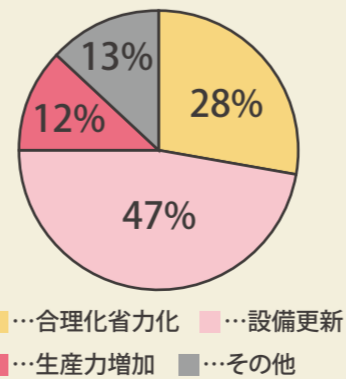
②①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	5	1	5	3	11	25
景気動向によって見直す	0	1	0	1	5	7
見直す	0	0	0	0	0	0



③①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

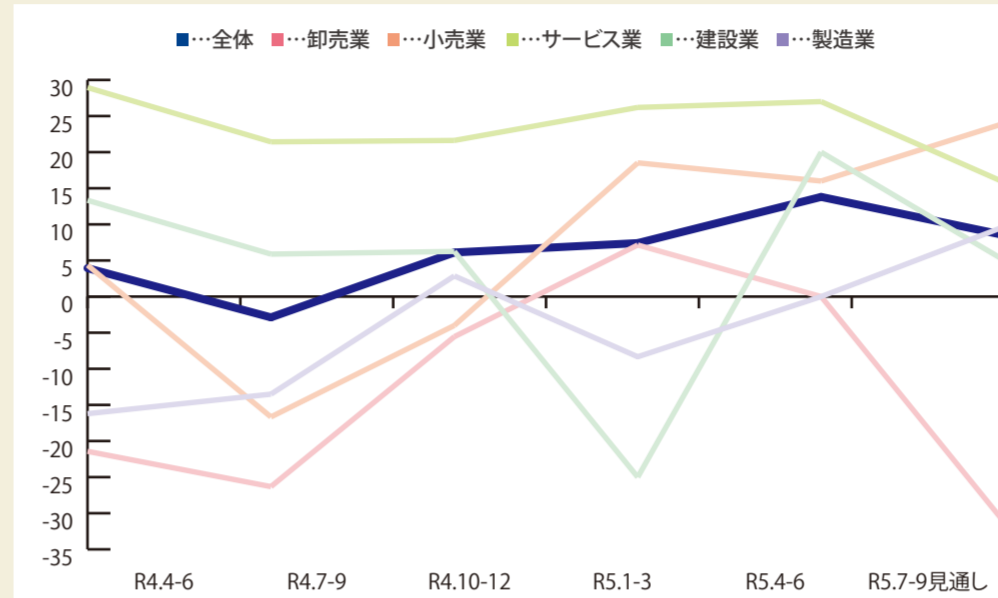
	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	2	0	0	1	6	9
設備更新	3	1	3	2	6	15
生産力増加	0	1	1	0	2	4
その他	0	0	1	1	2	4



調査項目別 DI の推移①

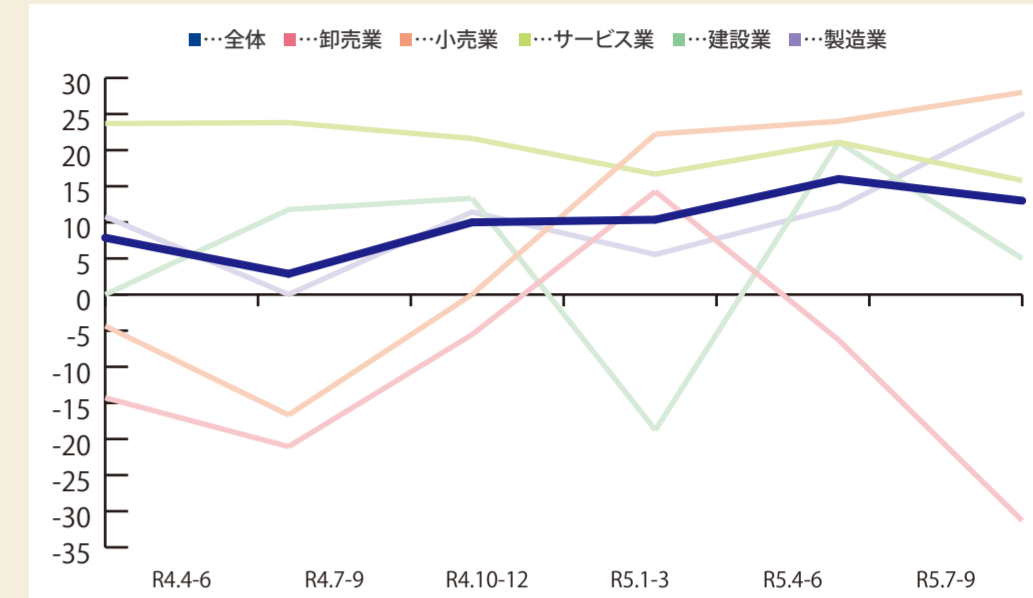
業況（好転-悪化）

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
全体	3.9	▲2.9	6.1	7.4	13.8	8.5
卸売業	▲21.4	▲26.3	▲5.6	7.1	0.0	▲31.3
小売業	4.3	▲16.7	▲4.0	18.5	16.0	24.0
サービス業	28.9	21.4	21.6	26.2	27.0	15.8
建設業	13.3	5.9	6.3	▲25.0	20.0	5.0
製造業	▲16.2	▲13.5	2.9	▲8.3	0.0	9.7



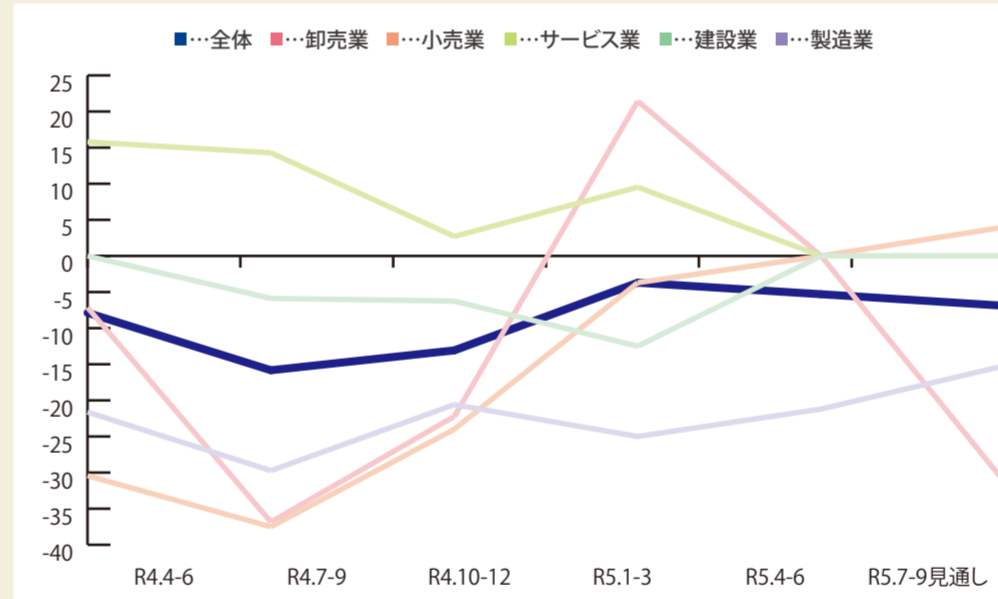
売上高（増加-減少）

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
全体	7.9	2.9	10.0	10.4	16.0	13.0
卸売業	▲14.3	▲21.1	▲5.6	14.3	▲6.3	▲31.3
小売業	▲4.3	▲16.7	0.0	22.2	24.0	28.0
サービス業	23.7	23.8	21.6	16.7	21.1	15.8
建設業	0.0	11.8	13.3	▲18.8	21.1	5.0
製造業	10.8	0.0	11.4	5.6	12.1	25.0



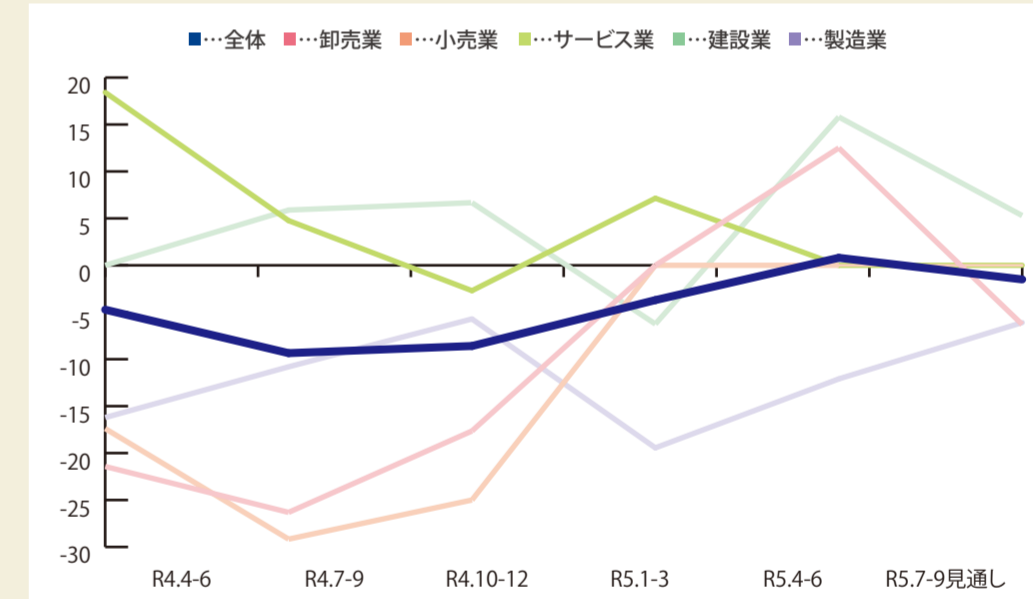
採算（好転-悪化）

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
全体	▲7.9	▲15.8	▲13.1	▲3.7	▲5.3	▲6.9
卸売業	▲7.1	▲36.8	▲22.2	21.4	0.0	▲31.3
小売業	▲30.4	▲37.5	▲24.0	▲3.7	0.0	4.0
サービス業	15.8	14.3	2.7	9.5	0.0	0.0
建設業	0.0	▲5.9	▲6.3	▲12.5	0.0	0.0
製造業	▲21.6	▲29.7	▲20.6	▲25.0	▲21.2	▲15.2



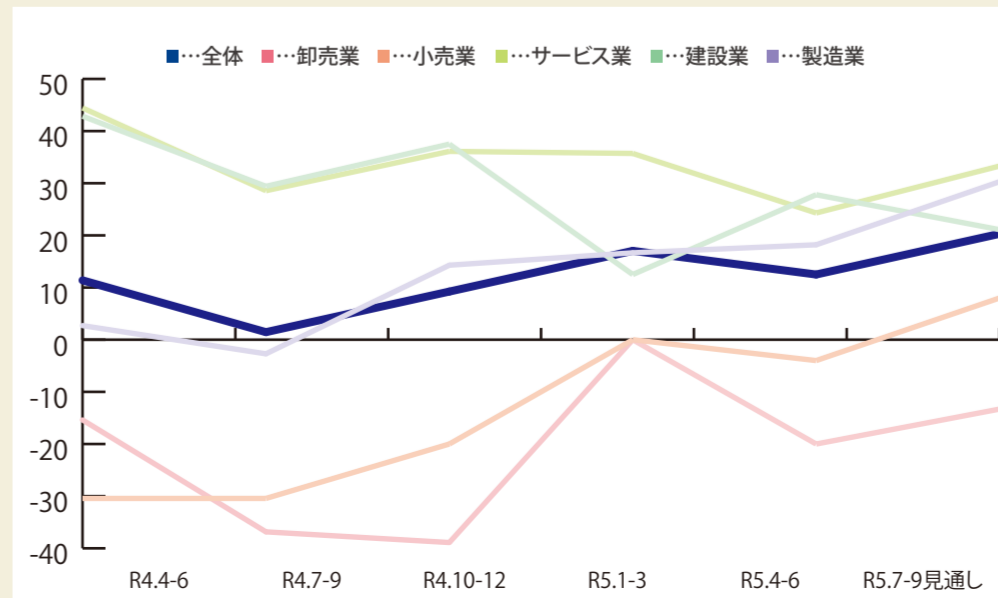
資金繰り（好転-悪化）

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
全体	▲4.7	▲9.4	▲8.6	▲3.7	0.8	▲1.5
卸売業	▲21.4	▲26.3	▲17.6	0.0	12.5	▲6.3
小売業	▲17.4	▲29.2	▲25.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	18.4	4.8	▲2.7	7.1	0.0	0.0
建設業	0.0	5.9	▲6.7	▲6.3	15.8	5.3
製造業	▲16.2	▲10.8	▲5.7	▲19.4	▲12.1	▲6.1



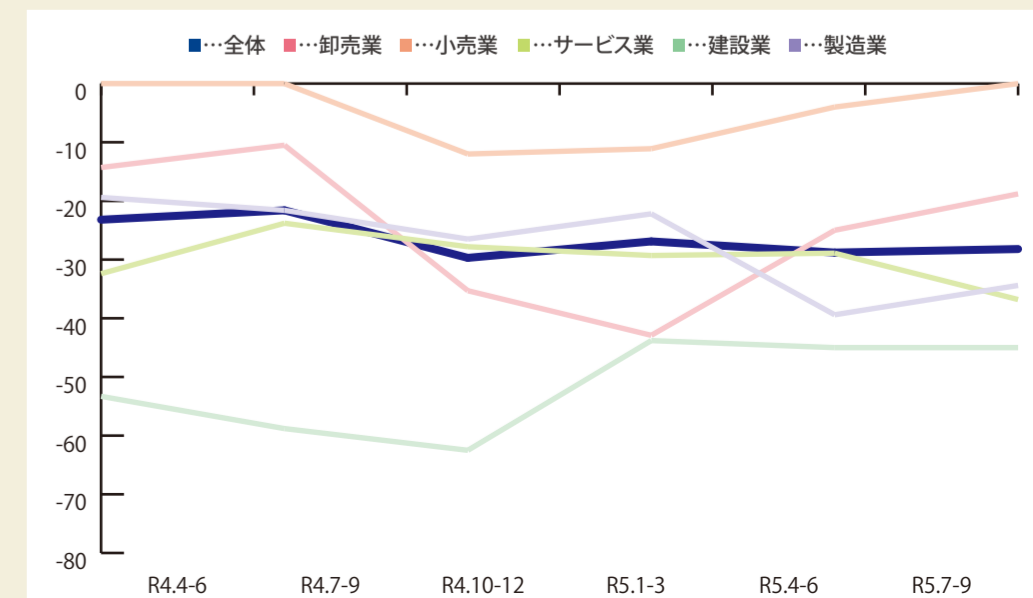
採算の水準（黒字-赤字）

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
全体	11.4	1.4	9.2	17.0	12.5	20.3
卸売業	▲15.4	▲36.8	▲38.9	0.0	▲20.0	▲13.3
小売業	▲30.4	▲30.4	▲20.0	0.0	▲4.0	8.0
サービス業	44.4	28.6	36.1	35.7	24.3	33.3
建設業	42.9	29.4	37.5	12.5	27.8	21.1
製造業	2.7	▲2.7	14.3	16.7	18.2	30.3



従業員（過剰-不足）

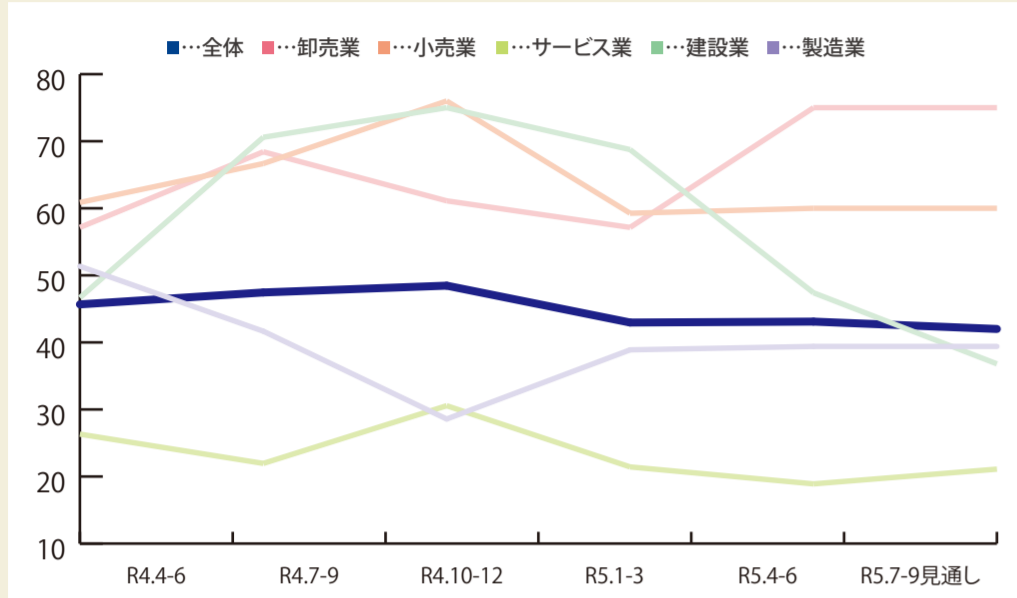
	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見通し
全体	▲23.2	▲21.6	▲29.7	▲26.9	▲28.8	▲28.2
卸売業	▲14.3	▲10.5	▲35.3	▲42.9	▲25.0	▲18.8
小売業	0.0	0.0	▲12.0	▲11.1	▲4.0	0.0
サービス業	▲32.4	▲23.8	▲27.8	▲29.3	▲28.9	▲36.8
建設業	▲53.3	▲58.8	▲62.5	▲43.8	▲45.0	▲45.0
製造業	▲19.4	▲21.6	▲26.5	▲22.2	▲39.4	▲34.4



調査項目別 DI の推移②

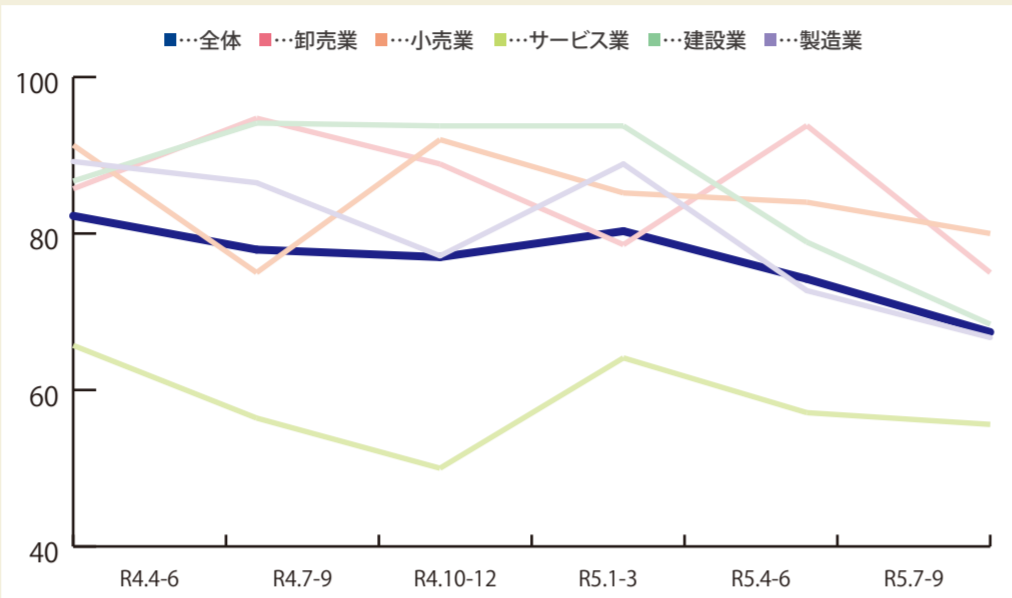
販売価格(上昇-下落)

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見直し
全体	45.7	47.4	48.5	43.0	43.1	42.0
卸売業	57.1	68.4	61.1	57.1	75.0	75.0
小売業	60.9	66.7	76.0	59.3	60.0	60.0
サービス業	26.3	22.0	30.6	21.4	18.9	21.1
建設業	46.7	70.6	75.0	68.8	47.4	36.8
製造業	51.4	41.7	28.6	38.9	39.4	39.4



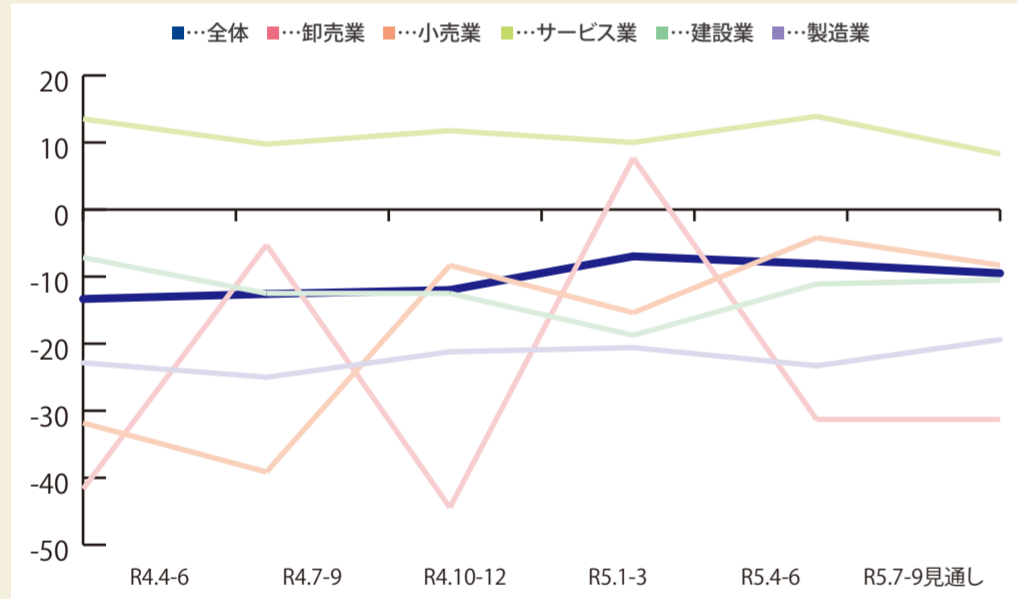
仕入価格(上昇-下落)

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見直し
全体	82.3	77.9	77.0	80.3	74.2	67.4
卸売業	85.7	94.7	88.9	78.6	93.8	75.0
小売業	91.3	75.0	92.0	85.2	84.0	80.0
サービス業	65.7	56.4	50.0	64.1	57.1	55.6
建設業	86.7	94.1	93.8	93.8	78.9	68.4
製造業	89.2	86.5	77.1	88.9	72.7	66.7



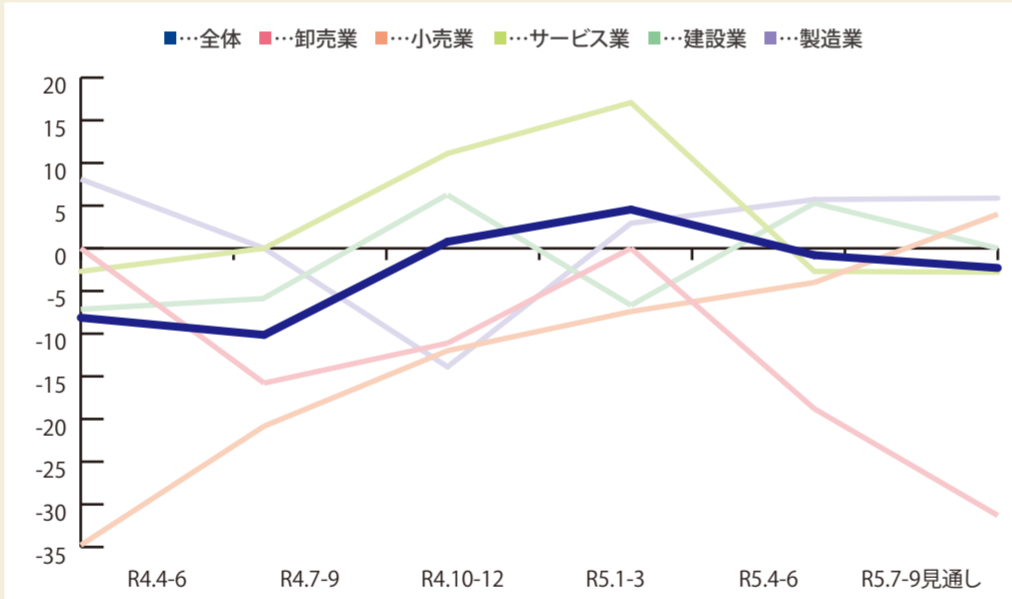
業界動向(好転-悪化)

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見直し
全体	▲13.3	▲12.6	▲12.0	▲7.0	▲8.1	▲9.5
卸売業	▲41.7	▲5.3	▲44.4	7.7	▲31.3	▲31.3
小売業	▲31.8	▲39.1	▲8.3	▲15.4	▲4.2	▲8.3
サービス業	13.5	9.8	11.8	10.0	13.9	8.3
建設業	▲7.1	▲12.5	▲12.5	▲18.8	▲11.1	▲10.5
製造業	▲22.9	▲25.0	▲21.2	▲20.6	▲23.3	▲19.4



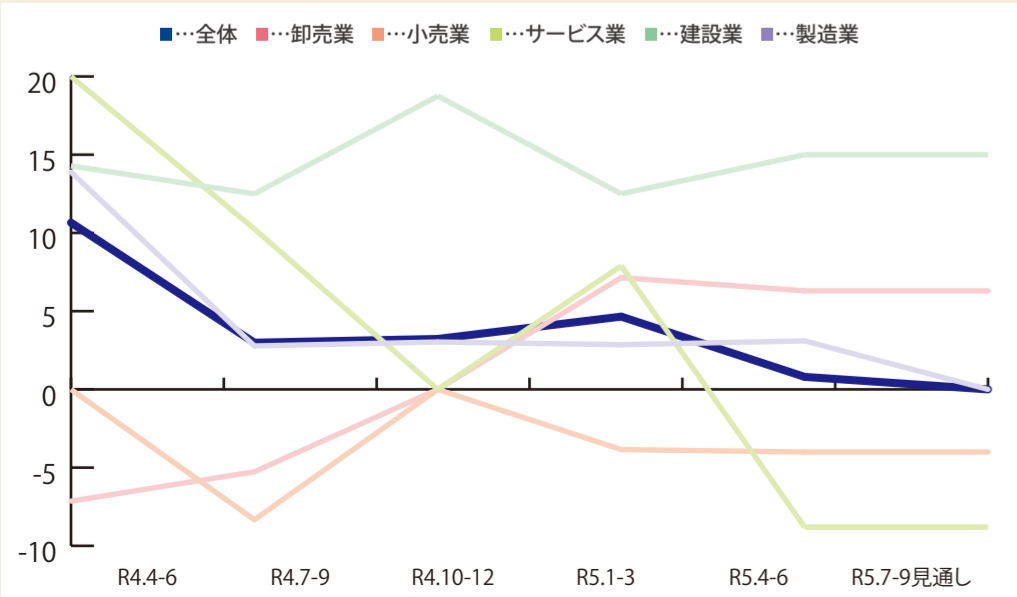
取引問合せ(活発-低調)

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見直し
全体	▲8.1	▲10.1	0.8	4.5	▲0.8	▲2.3
卸売業	0.0	▲15.8	▲11.1	0.0	▲18.8	▲31.3
小売業	▲34.8	▲20.8	▲12.0	▲7.4	▲4.0	4.0
サービス業	▲2.7	0.0	11.1	17.1	▲2.7	▲2.8
建設業	▲7.1	▲5.9	6.3	▲6.7	5.3	0.0
製造業	0.0	▲13.9	2.9	5.7	9.4	6.3



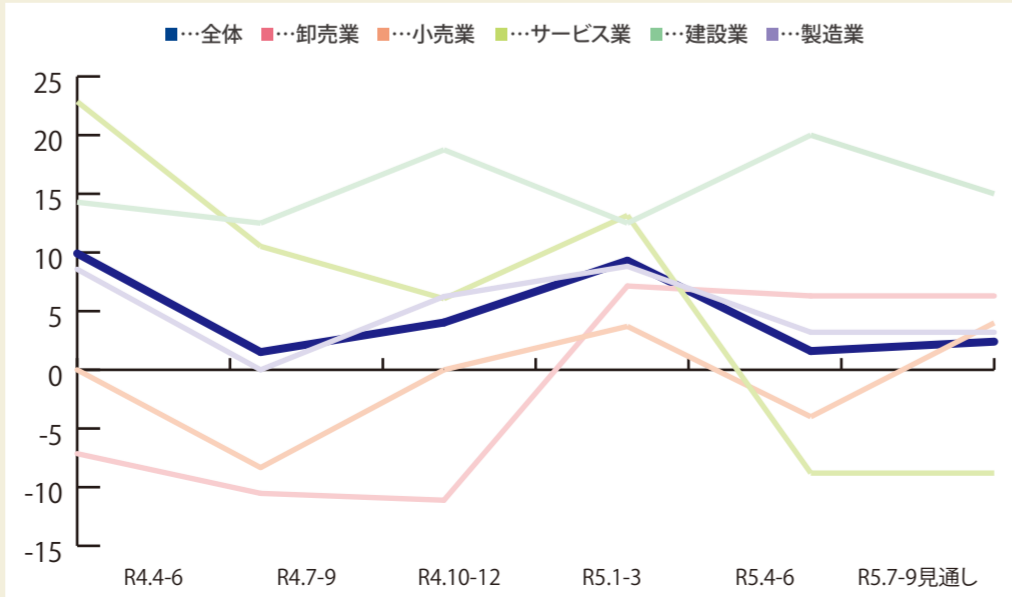
長期資金借入難度(容易-困難)

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見直し
全体	10.7	3.0	3.2	4.7	0.8	0.0
卸売業	▲7.1	▲5.3	0.0	7.1	6.3	6.3
小売業	0.0	▲8.3	0.0	▲3.8	▲4.0	▲4.0
サービス業	20.0	10.3	0.0	7.9	▲8.8	▲8.8
建設業	14.3	12.5	18.8	12.5	15.0	15.0
製造業	13.9	2.8	3.0	2.9	3.1	0.0



短期資金借入難度(容易-困難)

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9 見直し
全体	9.9	1.5	4.0	9.3	1.6	2.4
卸売業	▲7.1	▲10.5	▲11.1	7.1	6.3	6.3
小売業	0.0	▲8.3	0.0	3.7	▲4.0	4.0
サービス業	22.9	10.5	6.1	13.2	▲8.8	▲8.8
建設業	14.3	12.5	18.8	12.5	20.0	15.0
製造業	8.6	0.0	6.3	8.8	3.2	3.2



その他業種別自由意見

	好転👍	悪化👎
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> 仕入価格の上昇にともなう売上価格の上昇、売増となる。 コロナが落ち着いた感じで、人々の活動が活発になり外出などの機会が増えてきている為、顧客からの注文数量が増えていることなどから、売上の増加に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 物価上昇による需要の減退が気になる。 資材価格の上昇は相変わらずで、住宅業界において好転のきざしは見えない。 コロナの間にネット通販が増えて、販路が減少していると思われる。 ガソリン代が高騰のままであること。 各メーカーの値上げがまだ止まらない。 お金の使い道の変化。 雑誌等の休刊、発行間隔の長期化(月刊→隔月間等)。 ガソリン価格等、経営の上昇に伴ない採算悪化。
	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に広告投稿などを行い、ネットショップの売上げが好転してきた。本年度から始めたふるさと納税も貢献。 2月にリニューアルしたことで来店数が増加。 イートインに関しては上昇。 取引の引き合いは増えている。 価格転嫁のタイミングが難しい状況。 5月以降、各家庭での行事ごと等が増え、それに伴う販売が好転傾向にあると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い顧客は大手スーパー、ドラッグストアの利用へ流れてしまう。 食品材料費の高値、価格上昇。 材料費高騰。 引き続き、原材料価格高騰が続いており、採算面厳しい。 消費動向が低調。 力強さはなく不安定。 原油の高値によるもの。 物価が上がっていることで、必需品ではないオシャレ着を買うという余裕がないように見受けられる。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前と同じぐらいに宿泊客が動いている。 許可料金のUP。5/1より10%強値上げ。 客単価アップ。 スタッフの育成に重点をおいて業務を行うようにしている。 資材の供給が値上がりはしつつも安定してきたように思う。 若年層又世帯は消費が活発になってきている。持続するようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ドライバーの高齢化によって退職しても補充できない。 光熱費、原価の値上りによる利益の減少。 材料代値上り。 全般的低迷しているように思う。 シニア客層は消費を抑えている印象。
	<ul style="list-style-type: none"> 同業者が減っていく。 コロナ禍終息に向けて営業活動が活発になり、好景気を待ち望む期待値が高く、アフターコロナとコロナ前の比較で新たなイノベーションを生む。 	<ul style="list-style-type: none"> 競争の激化。 原価の高騰はまだ続いており、また新規客の減少であまりいい材料が無い。 原材料、副資材等の上昇。 コロナ禍で材料価格が高騰したが、現在高止まりで元に戻る気配がなく工事費は人材不足で上がっている。受注は、クライアントの見合わせ感が強い。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 2023年4月に得意先構内請負による製造拠点を2箇所新設した。 この数年の同業者の廃業に伴い、残っている事業者が希少となったことも相まって問い合わせが増えていると思われる。 原材料の高騰や人件費の上昇という経費の増加分も価格に転嫁を図っているところであるが、その価格も受け入れられている状況である。30年近くに及んだ、供給過剰による採算割れが解消されていく見込みが立ってきたように思われる。 さらに値上げを要望し、従業員の給与の増額、賞与の支払いも滞りなく行い、設備投資も行える環境を整えていきたいと考えている。そのことにより、この数年取り組んできた新事業にも弾みをつけたいと考える。 受注が安定し、採算も良いが人材の確保が難しくなっている。 販売価格の値上げは世間情勢からもまずまず実施出来ている。ただし、原料やエネルギーコストすべての転嫁は出来ておらず、粘り強く交渉していく方針。→表向きの増収要因となっている。 販売価格が上げやすくなった。 梅雨ころから急に、受注や引き合いが増加しており明るい兆しがあると考えている。 新聞、テレビ出演等で認知度が上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車メーカーの開発遅れによる金型需要の低下が懸念される。 すべての価格転嫁は出来ておらず、利益率は悪化。さらに、設備更新の費用や人件費も増加しており、製造原価や販管費は確実に上昇しており、利益確保に苦心している。 原材料価格、燃料、電力料の高騰。 仕入価格、燃料、輸送コスト上昇。 円安に歯止めがかからず、原料高、その他全ての経費が継続して上昇している。(デフレよりはよいが・・) 原材料の高騰で当初の見積り額では利益が減少した。 住宅着工数の減少(価格高騰、人口減少)。
	<ul style="list-style-type: none"> 建設業 	<ul style="list-style-type: none"> 建設業
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 建設業 	<ul style="list-style-type: none"> 建設業
	<ul style="list-style-type: none"> 建設業 	<ul style="list-style-type: none"> 建設業
製造業	<ul style="list-style-type: none"> 製造業 	<ul style="list-style-type: none"> 製造業
	<ul style="list-style-type: none"> 製造業 	<ul style="list-style-type: none"> 製造業